

国土交通省では、地域の方々と治水施設の生い立ちを振り返り、その果たしてきた役割や地域の洪水・土砂災害リスクについて再認識していただくため、完成から一定期間経過した施設について、現地見学等を実施する「アニバーサリープロジェクト」を推進しています。

琵琶湖河川事務所が管理する瀬田川洗堰が、2代目となる現在の施設に生まれ変わってから、今年で55年目となることから、住民団体との共催イベント「第9回水辺の匠」において、設置目的、仕組みなどを説明しました。

概要

「瀬田川洗堰誕生55周年特別講演」

○日時：平成28年7月23日（土）10:30～、14:30～

○参加者：80名



打ち水や工作 環境保全考える

大津2ヵ所でイベント

水の大切さや環境保全などを考えるイベント水辺の匠が23日、大津市黒津4丁目のアーク琵琶湖ウォーターステーション琵琶湖で開かれた。現在の瀬田川洗堰完成55周年を記念する講演会が開かれたほか、打ち水やアユのつかみ取り、工作体験などがあり、親子連れらでにぎわった。

水辺活動に取り組む844。（小川卓宏）

記念講演では、淀川流域の洪水を防ぐ洗堰の役割や仕組みなどをスタッフらがスライドや動画を使い説明。アーク琵琶湖前では来場者らによる打ち水イベントも行われ、強い日差しの中、子どもたちが元気にバケツで水をまいていた。



環境保全の思いを込めながら打ち水をするイベント参加者ら（大津市黒津4丁目・アーク琵琶湖）

H28. 7. 24 京都新聞（朝刊）に記事掲載されました（許諾済み）

瀬田川洗堰



←瀬田川

○事業完了：昭和36年（現本堰完成）

○堰 諸 元：可動堰

鋼製2段式ローラゲート10門、バイパス水路を備える

○設置目的：琵琶湖周辺の洪水防御、琵琶湖の水位維持、洗堰下流の淀川の洪水流量の低減及び流水の正常な機能の維持、水道用水及び工業用水の供給

琵琶湖周辺の洪水防御ならびに、下流淀川の洪水流量低減のため、万全の体制をとっています

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所 調査課
077-546-0867

